

責任と誇りを胸に、義務を果たす

～税を考える週間・税に関する作文より～

この度、中学生の「税についての作文」において、全国納税貯蓄組合連合会優秀賞に輝いた、明和中学校2年生の金子結珂（かねこゆうか）さんの作文を皆様にご紹介したいと思います。私も読ませていただき、中学2年生の若い世代の方が、ここまで税と町について理解をしてくれていることに感心をいたしました。

この作文は、令和4年11月18日の上毛新聞に掲載されました。掲載文をそのままご紹介いたします。（駅舎写真のみ追加しました）

【私たちの暮らしを支える税金】

明和中2年 金子結珂

私の住む町、明和町には「川俣駅」という駅がある。明和町唯一の駅であり、私の家から近いので、幼い頃からよく利用している。今でこそ、清潔感があり、綺麗で利用しやすいが、2016年に改修工事が行われるまでは、非常に利用しづらかった。

駅への出入り口は西側にしかなく、東側に住んでいる私は踏切を渡

らないと電車に乗ることができなかった。また、ホームに行くのに階段しかなく、エスカレーターやエレベーターがなかった。3、4歳の頃は階段を上がるだけで一苦労だったのを覚えている。跨線橋も古く、さびていて、下を電車が通ると少し揺れることもあった。しかし、今の川俣駅は別の駅に思える程、生まれ変わった。



【2016年1月に竣工した現在の川俣駅】

昔の駅舎は取り壊され、新しい駅舎が建った。東側にも出入口ができ、エレベーターやエスカレーターも作られた。さらに、2021年には東側に「明和メディカルセンタービル」という病院や薬局、カフェが入った施設が併設された。

私は、川俣駅がどんどん発展していくのを見て、明和町がどんどん暮らしやすい町になっていく嬉しさを感じるとともに、何故川俣駅は発展することができたのか疑問に思った。

明和町のホームページを使って調べてみるとその理由の一つに「社会資本整備総合交付金」による費用の負担があったことが分かった。社会資本整備総合交付金とは、まちづくりなど地域が抱える課題を自由に、かつ創意工夫を生かすため国が支出する交付金のことだ。そしてこのお金は、税金で賄われていることを知った。

私はとても驚いた。国民に納税の義務があることは知っていたが、どのように税金が使われているのかはよく分かっていなかったからだ。税金はいわば縁の下の力持ちのような存在であり、私たち国民の生活を支えてくれていることに気付いた。税金に感謝の気持ちを伝えたくなった。

一方で、日本では税金に批判的な意見やマイナスのイメージを持つ人も少なくない。私の両親も「日本は税金が結構高いんだよ。」と言っているのをよく耳にする。私は、だからこそすべての国民に税金が自分の暮らし、誰かの暮らしを支えていることを知り、納税に責任と誇りを感じてほしい。そのため、政府には税金の種類や使い道をもっと発信し、これからも国民の生活をよりよくするために税金を使うこと

をお願いしたい。

私はこの夏、川俣駅の発展について調べたことで、税金のおかげで私たちはよりよい生活を送れていることを知った。私の中で税金への見方が変わった。これからは税金への感謝や税金の支えがあることを忘れず過ごしていきたい。そして将来、私が納税するときは責任と誇りを胸に、しっかり義務を果たしたい。私が今、税金に支えられているように、私も誰かを支えていきたい。

(おわり)

【明和町長談】

明和町が今、社会資本整備総合交付金を使って様々な取り組みを行っていることを理解してくださり、本当に嬉しく思います。このような素晴らしい作文を書かれた金子結珂さんに感謝を申し上げます。

我が郷土である明和町が、国の資金（税金）を投入してよりよい生活を送れるように、大きく変わっていく姿を今後も見守ってほしいと思います。

令和4年12月1日

明和町長 富塚 もとすけ